

彼の敵は世界

優秀 7 答案

本日のミッション

難解テキストの読み解きに挑戦 ～その2

キーワードを切り出せ！

セットで

プリント＆スライドのなかから、ヒ
トラーの謎を解く上でこれが~~キー~~
~~ワード~~だ！ と ニラんだ言葉を
3セット切り出し、それぞれに解
説を添えてください。

自分で言葉をつくってもよい

キーワード(3つ以上挙げてもよい)相互の関係を明示すること

A



B

A



B

A



B

問2

あなたは映画監督。「彼の敵は世界」というコンセプトで、国の指導者の孤独を表現してくださいとの注文を受けました。どの国を舞台に、どんな映画をつくりますか？

今回は、かなりの高難度。

難解テキストを理解しつつ、
ユニークな映画コンセプトも提示できた人は
とても少なかったです。

そんななか、きっちり打ち返してきた7名さま、
グレートです。拍手！

キーワード・セットその1

強者の権利 ⇔ 服従心

神の子の孤独

文明が栄華を以前より当てる前にあった弱肉強食の世界をヒトラーは作りあげた。

E. H. さん

ワード・セットその2

平和 v.s. 虚無

解説

一般的に国の指導者は平和を目指すが、ヒトラーは虚無を目指した。
彼の権威にはなっていない事である。

キーワード・セットその3

破滅の意志 ⇒ 文明の砂漠

解説

ヒトラーの異常なまでの破滅の意志が、文明の砂漠ともいって何も残さず、
トゲツをやりあげた。

タイトル

イエスキリストの最後

説明（舞台・あらすじ・見せ場など）

舞台は紀元40年頃のヨーロッパ。イエスは預言者として人々に神の教を伝えている。隣人を愛し、お返しを待たずに死んでいく。弟子のユダに裏切られ、人々の隠れ場所に十字架にかけられる。信じていた者は裏切られ、絶望、死への恐怖、人々を振り回す。人間が誰かを救うことができない。闇を描く。

本日の懸け物

フランス版

K.Y. さん

キーワード・セットその1

冷たい光 = 幽霊

解説 すでにヒトラーが負けることが事実上決まったとき、総統地下要塞にある“人々の失望・声の悲鳴”を非常に上ずく奏わている。

キーワード・セットその2

(一般的な意味での)

勝戦 << 世界を“文明の砂漠”とすること = ヒトラーとしての勝戦?

解説 ヒトラーが目指していたものは、“文明の砂漠”を作り出すことであることがヒトラーが死んだから、明確にみえてきた。破滅へと向かうなんておかしいなどとは思わなかったのだろうと考へとおそろしい。

キーワード・セットその3

ヒトラーの悪意 = 周囲の人々の悪意

解説 周囲の人々はヒトラー個人に全てを捧げていた。ある意味では、ヒトラー信者といえると思われる。だから、破滅へと向かうヒトラーに人々は、ようこんでつけていったのかもしれない。

タイトル

独裁者の猫いた世界

説明 (舞台・あらすじ・見せ場など)

舞台はドイツのお隣「フランス」。人々は、ドイツでいうヒトラーに当たる人物（フランス人から熱狂的な指導

をうける独裁者）に先導され、他人種抹殺計画を実行する。（しかし、戦争に負け、食糧も底をついた人民は

あわてふため、死んでいく。その後独裁者は国際裁判にかけられ、公開処刑される。

キーワード・セットその1

ネロ命令 = 破滅への意志

We → I

彼も最後まで支えに「破滅への意志」が最後の絶望的防衛手段の「ネロ命令」として表れた。

H. A. さん

キーワード・セットその2

服従 → 無意味 ^{ばかばか}_{して}

解説

将校たちが疑念を持ちながらも、絶対的な服従心を持ってヒトラーに従っていたことは、ヒトラーの有無をいかにせぬ権威が表れている。

キーワード・セットその3

虚無 vs 装飾

解説

歴史上の列強国には必ず「棘の約束」といったような装飾をほどこしていたが、ヒトラーは全くとんでしまった。市民は彼に対し「虚無」という感情を抱いたが、逆に最も強い信頼となった。

問 2

あなたは映画監督。「彼の敵は世界」というコンセプトで、国の指導者の孤独をテーマに描く。

タイトル

Yes I Can!

説明（舞台・あらすじ・見せ場など）

アメリカのオバマ大統領のこゝからの話（未来の想像ストーリー）

経済・環境などの問題、全てが悪化し、当初の信頼が世間から無くなってから、辛抱して戦い続ける所が見せ場。

微笑みの国

K. T. さん

キーワード・セットその1

支配⇔抹消

解説 歴史上の帝国はみな、征服した国々に反抗することのメリットを無くし従順するように洗脳していったが、ヒトラーはユダヤ人に限らず反逆者を容赦なく粛清し、抹消した。

キーワード・セットその2

文明⇔虚無

解説 過去の国々は平和、進歩、自由などのうち何かしら保証されていたのに対し、ヒトラーの帝国ではあらゆる物を破壊し、「文明の砂漠」を作っていた。

キーワード・セットその3

権威⇒盲従

解説 政権を握ってから大規模な経済政策によって国民を失業から救い、国民の英雄となったヒトラーは絶大な権力を持ち、敗戦直前でさえ将校たちが戦争を続けるべきと考えるまでになった。

タイトル

アピシット

説明（舞台・あらすじ・見せ場など）

現在もなお混乱が続くタイで、国際的な批判にも関わらず民衆のデモに対して強硬な態度を取る首相の、国民やタフシン派や世界での孤獨な戦いを描く。

打つ手なし

K. T. さん

キーワード・セットその1

世界に対する憎悪 → 破壊意志

解説 全ての始まりは、憎悪から生じた破壊が彼の成功につながってしまったこと

キーワード・セットその2

不安や恐怖 + 憎悪 → 思想的感情的混乱 → 盲目的服従

解説 成功を下地に行なった事業が周囲の人の混乱を生み、それが服従につながった。

キーワード・セットその3

服従 → 権力 → さらに破壊
(強者の権利)

解説 服従は強者の権利を示し、それを基にセットその2につづがる破壊を行った

1 → 2 → 3

タイトル

VS. 世論

説明 (舞台・あらすじ・見せ場など) 舞台は日本、現在、総理となつた人の失脚

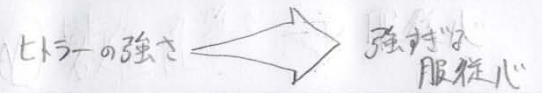
を様々な仮定のもと描く。政治問題について真面目に発言すれば、その一部の発言を誤解を

招く形で使われ失脚。発言しなければ無責任だと言われ失脚。マスコミを味方につけようとこびを売れば見有見ろを癒着だ罵詈雑言が来失脚。どんな仮定でも失脚する人です。

図化あざやか

K.Y. さん

キーワード・セットその1



解説

単にヒトラーが止まらなかったのではなく周囲が止まらなかった。これはヒトラーの本能的な強さがあり周囲の人々を陶酔させてほったらかしてはいない。

キーワード・セットその2



解説

本来戦争では自分の敵が存在するものであるがヒトラーは常に一人、すべて破壊すべき物として世界を見ていたのではない。

キーワード・セットその3



解説

ヒトラーの牽引力の要因は単に「強さ」そのもののみにあったのではない。それには理由も合理性も存在もなく虚無しか全うできないのではない。

イトル

SYOGUN

(舞台・あらすじ・見せ場など)

もちろん北のあの人が主人公。敵は世界という。今日の北朝鮮に難なく当て

はまる。見せ場は自分か病にかかっている命というものを初めて意識した所。

ヒトラーと重なり部分が多いが現代において、いったいこの人の考えがどこまで通用するのかもドキュメンタリータッチで描きたい。もちろんインフレーション。

ヒキコモリ独裁

J. K. さん

キーワード・セットその1

破壊への意志 = 平和命 = 世界へのかけ橋
平和命 = 平和命 = 世界へのかけ橋
破壊

平和命を支えた破壊への意志は、「もし負ければすべてが失われる」という考えによる。

ワード・セットその2

人類の約束 vs 強者の権利

解説

平和、進歩、自由なんつものは、キリスト教により生れた慣習の主義で、弱肉強食主義とは相反する。

キーワード・セットその3

彼の敵は世界^{世界} ⇔ 世界へのかけ橋の破壊

解説

世界を憎んだせいで、世界へのかけ橋が破壊された。逆も成り立つ。こちらが失ったんでしょ。

タイトル

たまには外出すれば？

説明（舞台・あらすじ・見せ場など）

すごいヒキコモリが、社会復帰のお話。ヒキコモリは「世界中が僕の敵」と考えるけれど、家から出てきて、思ひ込めだったというショートフィルム。大切なのは自分のお方だ、ということに気づかされる。